



世界有数の森林国・日本。保安林を美しく整備し、人々の生活環境を守ることに繋がる。

代表 高橋正二さんの思い

私の子どもの頃は、山や森林で遊び、嬉しいこと、楽しいこと、危険なことを自然から学び、体験し、森林と共に育ってきました。今考えると本当に山から教わったことが多かったように思えます。

しかし、近年、私たちの生活はどんどん山や森林から離れてしまい、人間としてのゆとりを失ってしまったように思います。

都会のコンクリートジャングルの中では、心から疲れて落ち着かない気がします。やはり山や森には人工物に囲まれた環境にはない豊かさがある、私は癒され、疲れがとれます。

今一度森林の大切さに思いを寄せ、みなで後世のために活力ある森林を創り、守っていきたくと思っています。



美しいのち芽吹く山林を満喫する
プロが教える山歩きの魅力とコツ

高橋正二さん

神奈川県出身。山梨県庁で林業改良指導員(Ag)や林道の測量・設計に30年間従事する。退職後、帰郷し、森林組合の理事を2年間務めて、林業経営の知識を深める。49歳で独立「株式会社高橋林業」を設立。経営基盤の強化に努めると同時に、手厚い福利厚生を整えて人材育成に注力、林業のイメージ刷新に意を注ぐ。

株式会社 高橋林業

☎ 042-689-2848

次の休日の過ごし方に迷っているあなた。煩わしい都会の人ごみから少し離れ、気持ちやコンディションをリフレッシュさせるのはいかがだろうか。自然が溢れる環境に身をゆだねることで体調が良くなったり、珍しい食材や美しい花に出会えたりと、山林では、びつくりするような効果や自然のものだからこそその魅力を味わうことができる。

また、美しいだけでなく、水を貯えたり土砂の流出を防いだり、風や潮から守ってくれるなど、私たちの周りの森林には、様々な力がある。自然は、人間の生活と命の根本を支え、より豊かにしてくれているのだ。

山をもっと身近に感じたいなら、まずは訪れるのが一番の近道。もちろん、最初から気張らずとも、スタートは近所の低山からでいい。四季折々に美しい姿を見せてくれるが、山が最も鮮やかに色づく春から緑の色彩豊かに

「山は、目で見て、舌で味わって楽しむことができる、最古のエンターテイメント施設。山桜やタンポポなどを視覚で満喫できる春はまたタラの芽やコゴミ、ウド、フキノなどの山菜があちらこちらに点在する季節でもあり、それらの山菜やワラビの最盛期を過ぎれば次はミズナやキイチゴが採り頃になります。山菜料理は、意外にもハードルが低く、天ぷらを始めとした、メインだけでなく食卓のプラスワンとしてもびつたりの逸品を簡単に作ることもができるのです。材料を実際に採るところから始まるわけですから、家族で食卓について味わうときの喜びと達成感はひとしおです。写真に収めたり、隣近所と分け合ったりすることで、喜びを周りの方と分かち合えることも山の魅力です」

木々が生い茂る初夏は、その中でも特に疲れた心にやすらぎをチャージさせてくれる。長年にわたり山林と寄り添いながら生きてきた林業のプロ「株式会社高橋林業」の高橋正二さんにその魅力を伺った。



青空が広がり、美しい自然をぜひ楽しんでみよう。

しかし、時に自然は人間に牙をむく。春から初夏にかけては気候が非常に変わりやすく、特に標高が高い山ではいきなり雨に降られてしまうことも。天気予報のまめなチェックはもちろん、いざという時のための雨具や防寒ウェアも準備して山に臨みたいものだ。肌寒い時には、ウィンドブレーカーとして使用でき、低体温症の危険がある寒い山でも活躍してくれるレインウェアは必須のアイテム。かいた汗をスムーズに外に排出することも大事なことで、蒸れを逃す機能もチェックしておいてほしいと高橋さんは語った。

準備万端で山を歩けば、必ず新たな発見に出逢えるはずだ。

(ライター/大嶋ひかり)